

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	雲沢財産区 造林保育事業					
担 当 課 係 名	角館総合窓口 課		総務 係		作成者	林崎文男
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	特色ある資源を生かした産業創造のまち				総合計画の ページ
	基本計画	森林の整備と林業の振興				
	主要施策	森林施業の促進				66
予 算 費 目	雲沢財産区特別 会計	2 款	総務費	1 項	総務管理費	5 目 財産管理費
事 業 期 間	平成 20 年度 ~ 平成 20 年度			新規 / 継続の区分		継続
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☒ 内部管理					
根 拠 法 令 等	地方自治法第3編第章（財産区）					
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務					
運 営 方 法	☐ 直 営 ☒ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助					

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	雲沢財産区管理会が管理する森林の適正管理
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	間伐等森林の適切な整備及び保全に努め、
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	森林の状態に応じ、計画的に除伐、間伐等の保育を行う

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	造林地総面積	目標	ha	17.64	17.64	17.64	
			実績	ha	17.64	17.64	17.64	
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
	成果指標	間伐等実施面積	目標	ha	6.30	5.20	7.40	
			実績	ha	6.30	5.20	7.40	
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				1,304	1,367	1,480	
	人 件 費 (B)		—		2,356	2,421	2,378	
	職 員 数		—		0.30	0.30	0.30	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				3,660	3,788	3,858	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源				3,660	3,788	3,858
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		207,483	214,739	218,707
市民1人当たりのコスト(円)		—		115	120	124		

【事務事業の今までの成果】

森林国営保険の加入	18年度	釜ノ川山地内	6.3ha間伐
	19年度	釜ノ川山地内	5.2ha間伐

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	地球温暖化対策に取り組んでいるため樹木の植林は有効とみている
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	近年、地球温暖化や自然破壊など進んでいる中、造林保育事業は地球に優しい事業である。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
B 1	A 現状のまま継続（実施）	財産区有林の貸付収入及び造林基金を取崩しての事業なので、現状の継続で森林の状態に応じ、計画的に除伐、間伐等の保育を行う
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）
現在木材産業界の動向で造林事業での財産確保は困難な状態にあるのではないかと、業界の動向を見ながら長期的な及び自然保護的見方で事業を進める

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	森林施業の促進と適切な整備・保全を図るため、本事業は引き続き必要と考えます。

